

パネルディスカッション4：在宅リハビリテーションの現状と課題

演題名	当事業所における作業療法の取り組みを通して
------------	-----------------------

概要

2025年問題を抱える超高齢化社会の中、社会保障のあり方の見直しが進む一方で、ますます早期に退院する患者の増加がみられている。在宅医療では、リハビリテーションのニーズが高まっているが、対応可能な施設が少ないのが現状である。

地域で訪問リハビリテーションに関わった6年間を通して感じたことは、疾病により一旦低下した機能が急性期・回復期を経て改善するものの、長い年月とともに日常生活動作（ADL）が低下していく経過をたどる。難病などの進行性疾患に対しては、その状況にあった適切な判断が常に求められる。これらのことは私が病院勤務時代では経験できなかったことである。

入院でのリハビリテーションでは、主に心身機能の改善やADL・生活関連動作（IADL）の自立に向け作業療法を行うことが多いが、コミュニティへの参加を支援することは難しい。また、限られた在院日数ではリハビリテーションでの効果が十分発揮されず、QOLの向上にはつながらないこともある。

今回、当事業所における在宅での作業療法の取り組みを紹介させていただき、在宅でのリハビリテーションのあり方を考えていきたい。